非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者に対する総合的健康把握事業の試み

研究分担者
三田　英治　国立病院機構大阪医療センター 消化器内科
研究協力者
石田　　永　国立病院機構大阪医療センター 消化器内科
田中　聡司　国立病院機構大阪医療センター 消化器内科
石原　朗雄　国立病院機構大阪医療センター 消化器内科

研究要旨

非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者において、HCV との重複感染に伴う C 型慢性肝疾患および肝細胞癌が大きな課題であったが、抗ウイルス治療の進歩によって肝疾患関連死の減少が期待される。一方で、加齢に伴い肝細胞癌以外の悪性新生物、生活習慣病が生命予後を規定すると考える。そこで、身体を総合的に診れる健康把握事業の必要性と実施の可否、問題点を抽出するため、当院通院中の患者で事業の開始を行った。少数での経験であるが、検査入院を希望される方は 2/3 と多く、実運用にうつすことは可能と考えられた。

A. 研究目的

非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者において、HCV との重複感染に伴う C 型慢性肝疾患および肝細胞癌が大きな課題であった。しかし C 型肝炎に対する直接作動型抗ウイルス薬（Direct anti-viral、DAA）の登場によって、HCV 関連病変の制御はある程度可能となった。一方で加齢による肝細胞癌以外の悪性新生物、生活習慣病が生命予後を規定すると考え、総合的健康把握事業を勘案し、まず当院に通院中の患者を対象に実施に移した。

B. 研究方法

対象は国立病院機構大阪医療センター感染症内科・消化器内科に通院加療中の非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病患者 18 名である。外来受診の際に「総合的健康把握事業」の概要を説明し、入院をすすめた。全例 HCV との重複感染歴があり、現在はウイルス排除後（sustained virological response、SVR）の状態であった。

入院のおおまかな日程は以下の通りとし、個々人の都合にあわせて柔軟に対応した。

日曜
　入院日、注腸食と下剤で大腸内視鏡の前処置を行う。
月曜
　胸部 X-P、心電図
　上部消化管内視鏡、大腸内視鏡
　腹部エコー
　ART で TDF/TAF 製剤を服用していた場合、骨塩定量を考慮
火曜
　必要に応じて肝 dynamic CT（もしくは EOB-MRI）
　主治医が必要と判断した場合、胸部 CT や循環器内科のコンサルテーションを考慮した。
水曜
　遠隔地の患者を対象とした場合は水曜日に退院し、近隣の PET センターで PET-CT を撮影。その結果を含めて郵送することとした。しかし、今年度は当院通院中の患者を対象としたため、火曜に退院し、別途 PET-CT を受診に行く形式となった。PET-CT に関しては、入院後にその意義を説明し、患者の希望／同意があった場合のみ実施することとした。

また外来での「総合的健康把握事業」を希望された場合も対応した。

C. 研究結果

入院での実施に同意いただいた患者は 10 名で、3 名に「総合的健康把握事業」を行った。残り 7 名は予定時期の前に、新型コロナウイルスの感染拡大第 1 波に対する緊急事態宣言が発令され、実施を延期した。

5 名の患者は外来での実施を希望された。3 名は通院間隔の関係で、本事業の説明をする外来前に、緊急事態宣言が発出されたため、未説明である。結果、入院希望が 15 名中 10 名（67%）であった。

外来での実施を希望された理由は、勤務を休めないからという理由が大半であった。一方で、休職中であったり、コロナ禍のためテレワークが主体で休みやすかったりという理由で入院での実施を希望された方もあり、個々人の社会的背景を考える必要があった。また実施時期の希望は夏期休暇を利用したいというものが多かった。

また前年度に上部消化管内視鏡および大腸内視鏡を受けている患者は、2020 年度のこれら内視鏡検査を敬遠されることが多く、そのため外来で受けることを希望された。

D. 考　察

本事業のゴールは拠点病院として西日本の非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の「総合的健康把握事業」の受け入れである。入院前日に来阪して日曜入院、諸検査を受けたのち、火曜もしくは水曜退院をイメージしている。

事業を開始した矢先、想定外の新型コロナウイルスの流行で、停滞してはいるが、収束とともに速やかに再開したい。ただ少数例での検討の中でも、臨床心理士との面談、口腔ケアも考えてはどうか、循環器内科に積極的に参画してもらってはどうか、などの意見が寄せられ、次年度以降の参考としたい。

また全員が HCV 感染を合併しているため、健診内容が肝疾患を意識し、また消化管内視鏡検査にかたよっていたため、通常の外来診療との差を印象づけることができず、今後は健診の項目をひろげることが必要と思われた。

E. 結　論

当院通院中の非加熱血液凝固因子製剤による HIV・HCV 重複感染血友病等患者に対し、「総合的健康把握事業」を開始した。改善点を精査して、次年度にいかしたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1．論文発表

1. 三田英治．HIV 感染症と肝胆道系疾患．別冊 日本臨牀「肝・胆道系症候群（第 3 版）」pp. 50-53、2021 年 1 月 31 日

2．学会発表

1. 田中聡司、清木祐介、西本奈穂、早田菜保子、宮崎徹郎、藤井祥史、岩﨑哲也、石原朗雄、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田永、三田英治．HIV 感染者に対する A 型肝炎ワクチン接種効果の検討．第 56 回 日本肝臓学会総会、大阪、2020 年 5 月
2. HIV 合併の A 型急性肝炎、C 型急性肝炎では強い肝障害を惹起する．石原朗雄、清木祐介、宮崎哲郎、西本奈穂、早田菜保子、平尾建、藤井祥史、岩﨑哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田永、三田英治．第 56 回 日本肝臓学会総会、大阪、2020 年 5 月

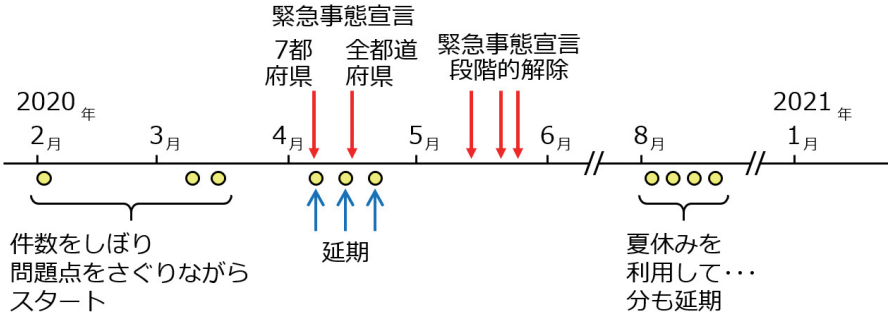
H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

2．実用新案登録

3．その他

なし



図．2020 年度、事業実施記録